

短報

薬物乱用防止講話における
 高校生の意識について

—統計的手法を用いた考察—

折原直美, 佐藤善博, 小島 尚

The conscious of high school students
 regarding lectures
 on prevention of drug abuse
 —A review using a statistical approach—

Naomi ORIHARA, Yoshihiro SATO
 and Takashi KOJIMA

緒言

神奈川県民への専門的な知識の普及・啓発をめざした神奈川県衛生研究所の企画による出前講座が平成19年12月より実施されている。その出前講座の中で高校生を対象に「薬物乱用防止に関わる講話」を行い、同時に、高校生の薬物に対する知識・理解・意識について解析することを目的としたアンケート調査を実施した。アンケート内容は女子の数が優位な高校であることを考慮し、ダイエット用健康食品を導入部とし、薬物乱用防止に終わる講話に併せたものとした。高校生の薬物に対する意識の解析については、自由感想を主体とするため、多変量解析の一手法である数量化Ⅲ類¹⁾を用い、解析結果を2次元平面に配置することによりカテゴリあるいはサンプル間の類似性や位置関係の解釈を試み、薬物乱用防止に対する高校生の意識について考察したので報告する。

方法

平成19年12月に県内のA高校で「薬物乱用防止に関わる講話」を行い、1年生204名(男67名, 女137名), 2年生213名(男60名, 女153名)からアンケート回答を得た。

アンケート内容は、ダイエット用健康食品(以下DF)に関する設問及び薬物乱用(以下薬乱)に関する設問からなっており、講話の前後にアンケート調査を行い、前後

で対になった設問、個人が持つ知識等を聞く対のない設問及び生徒の感想を聞く設問が配置されている(表1)。

解析には、エクセル統計2006((株)社会情報サービス)を用いて行った。解析を行うにあたり、対になった設問の回答、無回答及びその他を除外した。問12、問17、問20の自由回答は内容ごとにグループ化してラベルを付けカテゴリ化し、また、各質問(アイテム)に対しては回答項目をカテゴリ化し、いずれも「はい」を1、「いいえ」を0として1/0データに数値変換したものを解析に供した。

自由回答のグループ化に対しては、DFや薬物に対する危険意識を持つグループ化は「DFの落とし穴」「ひどさ・怖さの再認識」「薬物が身近に迫っている」「海外製品に注意」などのラベルを付けた。また、DFの知識を持つグループ化は「DFが薬乱につながることを知っている」「健康被害も知っている」などのラベルを付け、薬物の知識を持つグループ化は「乱用薬物とは体に影響が出る薬物」「法律で規制されている薬物」などのラベルを付けた。さらに、薬乱防止意識を持つグループ化は「薬物は絶対に使わない」「違法薬物は栽培しない」「薬物には関わらない」「誘惑に注意する」などのラベルを付けた。これらをそのままカテゴリ化して解析に供した。

表1 アンケート内容(対になった設問を除く)

ダイエット用健康食品について	
問1	ダイエット用健康食品を知っていますか 1. 知っている 2. 知らない
問3	あなたはダイエット用健康食品を・・・に続く語句を1つ選んでください 1. 使ったことがある 2. 今使っている 3. 使いたい 4. 使うかもしれない 5. 使いたくない 6. わからない
問4	ダイエット用健康食品には、健康に被害が出る製品があることを知っていますか 1. 知っている 2. 知らない
問6	ダイエット用健康食品が薬物乱用につながる例があることを知っていますか 1. 知っている 2. 知らない 3. その他
問12	ダイエット用健康食品についてどのような感想をもちましたか また、下欄から選べる物があれば1つ選んでください 1. おどろいた 2. 知っていたがたいしたことないと思っていた 3. 全然知らなかった 4. 知っていたがこれほどひどいことがあると思わなかった
問15	ダイエット効果のある薬剤のうち薬物への依存性のあるものはどれですか 1. 食欲抑制剤 2. 覚せい剤 3. 下剤
問20	今日の講話を聞いて感じたことを書いてください
薬物乱用について	
問7	薬物乱用について聞いたことがありますか 1. 聞いたことがある 2. 聞いたことがない
問9	乱用される薬物としてどのようなものがありますか(複数回答可) 1. 薬局や病院でもらうもの 2. 身体に悪い影響のするもの 3. 法律で禁止されている薬 4. わからない 5. その他
問11	薬物と日頃使っている薬との違いはわかりましたか 1. わかった 2. わからない
問17	薬物依存にならないためには、どうすればいいとおもいますか また、下欄から選べるものがあればいくつでも選んでください 1. 麻薬・覚せい剤に近づかない 2. 友人や先輩からの誘いには気をつける 3. 大麻のような違法薬物を栽培しない 4. 違法ドラッグを使わない

結果及び考察

アンケートの回答項目（カテゴリ）を変数にとり数量化Ⅲ類を用いて解析を行い2次元平面図に現した（図1、図2）。解析には「その他」、無回答を対象から外した。

1 ダイエット健康食品に対する意識について

図1のカテゴリスコアグラフからおおまかに楕円で囲んだ3つのグループに分かれることが読み取れた。右下のラベルを見るとDFに対する危険性を認識しているグループと推定された。左下に向かっては「DFを知らない」「健康被害が出るDFを知らない」「DFが薬乱につながることを知らない」「DFにおどろいた」などのラベルが見られDFに対する危険性の認識が低いグループと推定された。また、右上に向かってのラベルを見ると、薬物の知識もありDFの危険性も認識しているグループと推定された。しかし、カテゴリに対する累積寄与率は14.53%であり、DFに対して生徒が持つ意識について3つのグループに完全には分離されていない。このことから第1軸はDFに対する危険意識を分ける軸と推定され、属性別平均からは、第1軸は「理解できた」「理解できなかった」で分けられており、理解できた人がDFの危険性を認識し、理解できなかった人がDFの危険性をあまり強く認識で

きなかったと推定される。これにより、第1軸はDFに対する危険意識を分ける軸と解釈された。

第2軸については、カテゴリスコアグラフからは右下、左下のラベルにみられるように、DFについては関心が薄いように推定された。また、右上、左上では「DFが薬乱につながることを知っている」「健康被害も知っている」のラベルにみられるように、薬物の知識を持っておりDFの関心も高いことが推定された。このことから第2軸はDFに対する関心を分ける軸、さらに薬物の知識を分ける軸と解釈された。カテゴリスコアから算出されたサンプルスコアのグラフをみると、薬物の知識も少ないがDFに対する危険性を認識するグループ（危険意識グループ）は人数的には多くなく、また、DFへの関心もあり、知識も持ち、危険性も認識しているグループ（良識的なグループ）、及びDFへの関心も危険性の認識も低いグループ（無関心グループ）に密集していた。しかし、サンプルスコアから算出された属性別平均グラフから、男より女の方が、1年生より2年生の方がDFに対する関心が高いことが推定された。

2 薬物乱用に対する意識について

図2のカテゴリスコアグラフからおおまかに楕円で囲

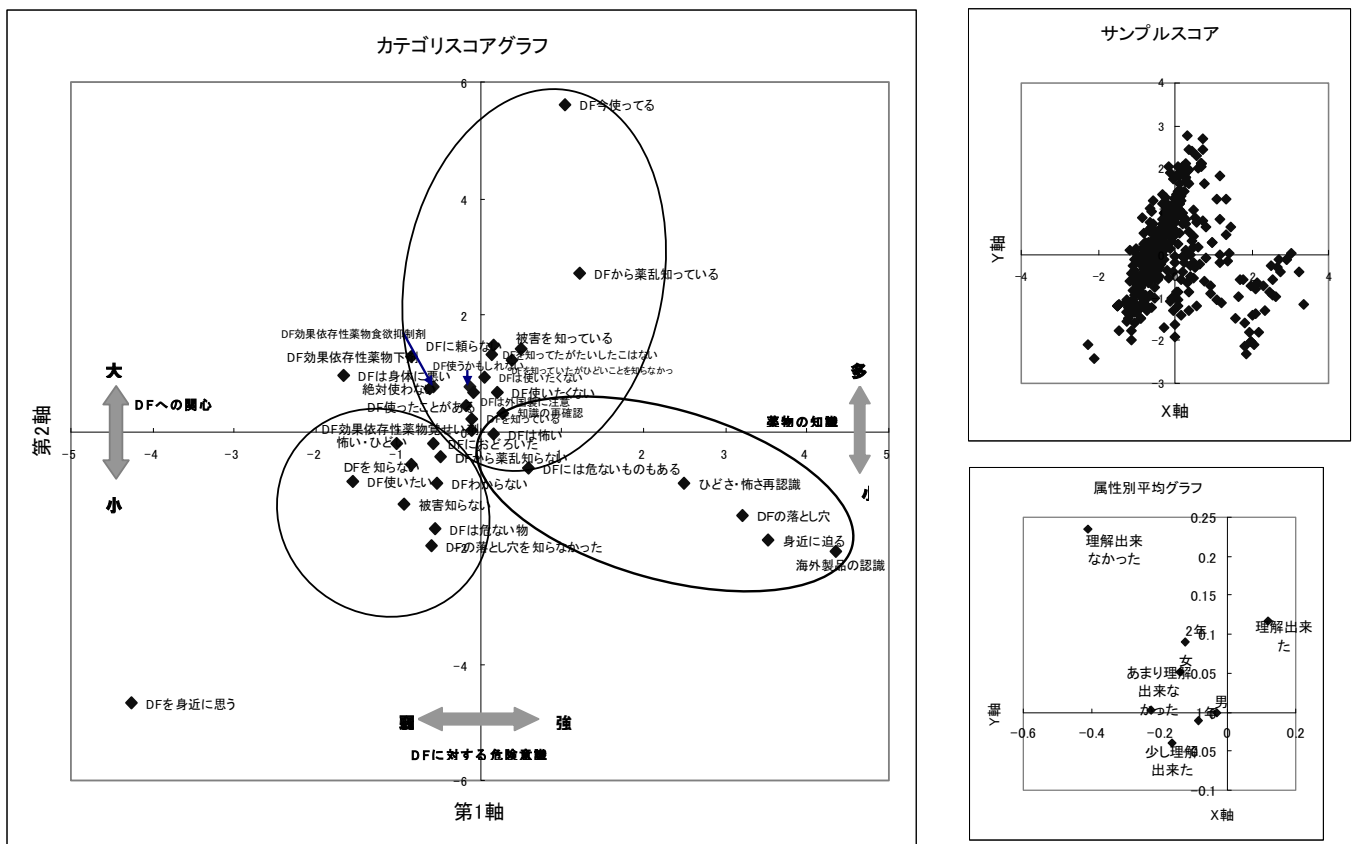


図1 ダイエット用健康食品における意識の散布図

んだ3つのグループに分かれることが読み取れた。右上は「聞いたことがない」「乱用薬物は何があるかわからない」「薬と薬物の違いがわからない」などのラベルが見られ薬物に対する知識も少なく危険性の認識も低いグループと推定された。左上のラベルからこのグループは薬物に対する危険性を認識しているグループと推定された。また、グラフの中心部近くから左下のラベルからはこのグループは薬物、特に乱用薬物に対して危険性も認識し、薬物乱用防止を積極的に考えていく意識が高いグループと推定された。しかし、カテゴリに対する累積寄与率は27.87%であり、薬物乱用に対して生徒が持つ意識について3つのグループに完全には分離されていない。属性別平均からは第1軸で「理解できた」「理解できず」で分けられている。このことから第1軸はDFと同様に薬物に対する危険意識を分ける軸と解釈された。

第2軸については、カテゴリスコアグラフからは右下、左下の中心付近のラベルにみられるように、薬物乱用防止を積極的に考えていく意識が高いと推定された。右上、左上のラベルを見ると薬物乱用防止を積極的に考えていく意識は低いように推定された。このことから第2軸は薬物乱用防止意識の軸と解釈された。カテゴリスコアか

ら算出されたサンプルスコアのグラフをみると、薬物に対する知識も少なく危険性の認識も低いグループ（無関心グループ）は人数的には多くなく、また、薬物に対する危険性を認識しているグループ（危険性認識グループ）、及び薬物乱用防止を積極的に考えていく意識が高いグループ（防止積極的グループ）に密集していた。しかし、サンプルスコアから算出された属性別平均グラフから、男より女の方が、1年生より2年生の方が薬物乱用防止に対して積極的な意識を持つことが推定された。

まとめ

薬物乱用防止講話における高校生の意識をみると、ダイエット用健康食品、薬物乱用のいずれについても無関心グループが少数であるが見られ、しかし、1年生より2年生が、男より女が薬物乱用防止に対して積極的な意識を持つことが推定された。今後はこの解析結果を生かして、無関心グループや男に対する薬物乱用の危機意識付けなど薬物乱用防止講話に盛り込んでいきたい。また、自由感想のカテゴリ化をする際にラベルの文言が長く（例えば「違法ドラッグ非使用で防ぐ」など）、明確に端的に現す文言（6文字以内程度）でカテゴリ化を行うと

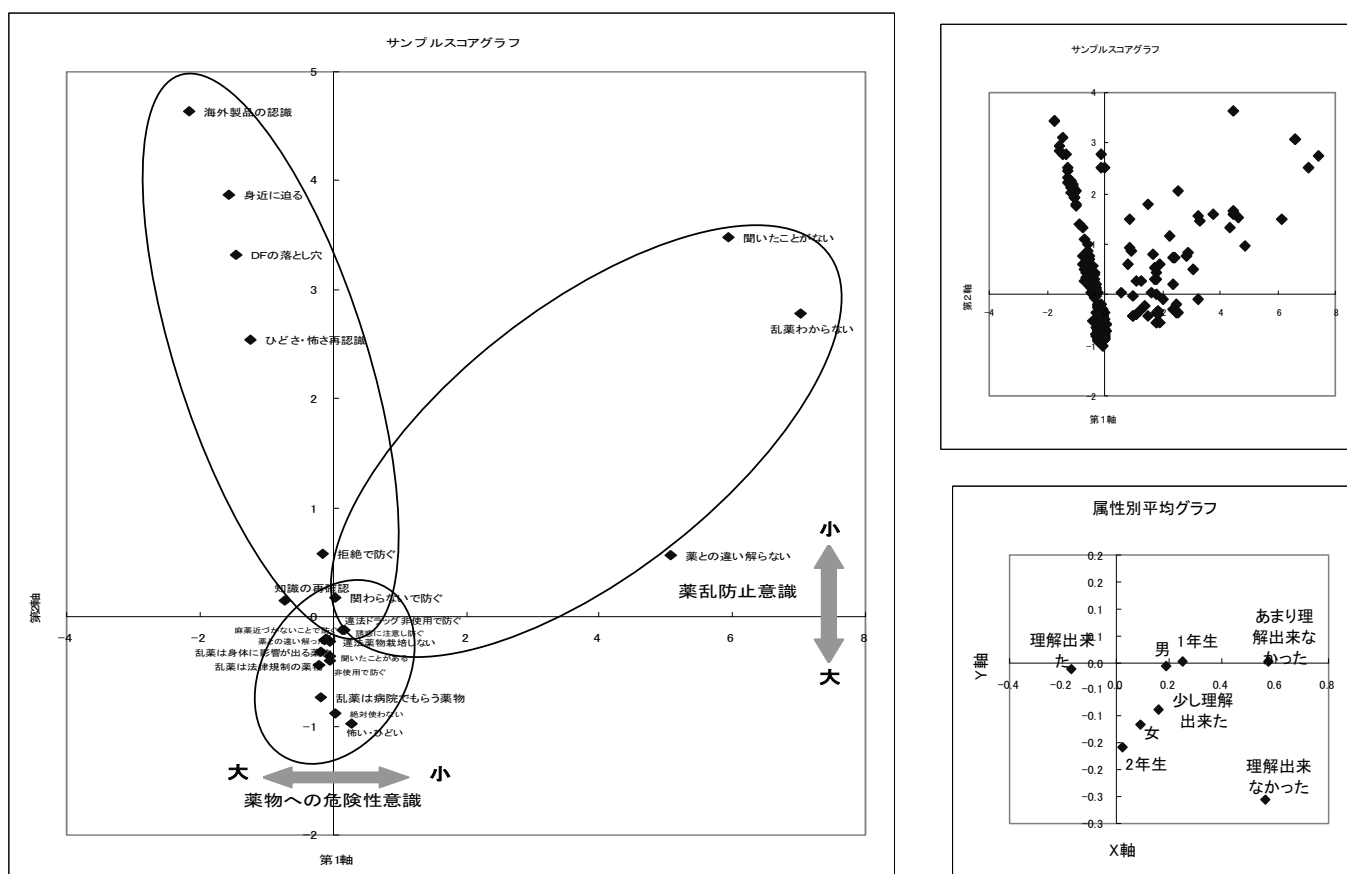


図2 薬物乱用における意識の散布図

さらに明瞭な解析結果が得られると思われた。

従来行われている薬物乱用防止教育におけるアンケート調査は単純集計であるため、知識、理解及び自由感想との相互関係を知ることはできず、単純に回答項目に対する割合でしか示すことができない。しかし、知識や理解の程度また自由感想などのカテゴリデータから相互関係を探ろうとするようなアンケート調査では数量化Ⅲ類による解析が有効といわれている。今回、この解析法を用いて回答者の類似度や回答項目の類似度からグループ化の

推定を行い、グループ間の相互関係を推定するなど、今後の薬物乱用防止教育の改善のための有用な情報が得られた。

(平成20年7月28日受理)

文 献

- 1) 菅 民郎：多変量解析の実践，下巻，pp118-159，現代数学社，京都（1993）